（１３） 果 樹 類

※ラベルの注意事項あるいは部分散布等により、作物ごとの薬害に留意して使用する。
作物によって使用時の希釈倍数や総使用回数等が異なる場合があるのでラベルをよく確認する。

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 うどんこ病	1.日当たりを良好にし、適正な肥培管理に努める。 2.被害葉を集めて、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.かき、ぶどう、すももに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱を生じるおそれがあるので果実ののある時期は使用しない。 2.青なし品種（二十世紀、ゴールド二十世紀等）には、薬害（褐変）が生じるおそれがある。	発生初期	－	エコピタ液剤
2 根頭がんしゅ病 *Agrobacterium tumefaciens*	1.苗は無病地でつくる。 2.無病苗木を植える。 3.定植後、葉色や枝の伸長枝の伸長の悪いものは支根の付け根まで掘って、がんしゅ病の有無を調べ、定植２～３年目のものは改植を行う。 4.成木に発病を認めたときは、がんしゅをていねいにはぎ取り、あとで接ろうを塗っておく。	移植時または定植時	－	エコアーク
3 白紋羽病 *Rosellinia necatrix* 紫紋羽病 *Helicobasidium mompa*	1.作物がない場合、禾本科の作物を３～４年栽培し、石灰などを施して有機物の分解を促進させる。 2.前作物の罹病根は集めて処分する。 3.小面積の場合は、焼土法を行うのもよい。 4.栽植に当たっては、発病のおそれがあるところは植穴に粗大有機物などの埋没をしない。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。	植付前	－	NCS
4 切り口及び傷口のゆ合促進		せん定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後	1	トップジンMペースト
5 アブラムシ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.オレート液剤、エコピタ液剤は害虫に直接かからないと効果がないので、ムラ無く丁寧に散布する。 2.オレート液剤は高温時期の散布を避ける。 3.エコピタ液剤の薬害の特記事項はうどんこ病の項参照。	発生初期	－ －	オレート液剤 エコピタ液剤
6 ハダニ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 2.８月中旬に誘殺バンドを設置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.天敵資材は、Ⅲ-２０天敵農薬等による防除を参照 2.アカリタッチ乳剤、エコピタ液剤は害虫に直接かからないと効果がないので、ムラ無く丁寧に散布する。 3.アカリタッチ乳剤、エコピタ液剤は殺卵効果や残効はない。 4.アカリタッチ乳剤は高温時期の散布を避ける。 5.アカリタッチ乳剤は普通温州以外のかんきつの幼果期及び果実肥大期、なしの幼果期の散布は、果実に薬害を生じるおそれがあるので避ける。 6.エコピタ液剤の薬害の特記事項はうどんこ病の項参照。 7.エコピタ液剤は、かんきつではハダニ類（ミカンハダニを除く）に登録がある。	発生初期	－ －	アカリタッチ乳剤 エコピタ液剤 天敵資材
7 ハマキムシ類	1.粗皮削りを行うとともに、卵塊をつぶす。 2.葉巻内の越冬幼虫を捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.コンフューザーNの注意事項 ・枝に巻きつけ固定する。 ・平坦地、広面積の使用で効果が高い。 ・急傾斜地、風の強い地域等、本剤の濃度を維持するのが困難な地域では設置を見合わせる。 ・Ⅲ－２５．フェロモン剤についての項参照。	発生初期	11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF クオークフロアブル ファイブスター顆粒水和剤 チューンアップ顆粒水和剤 トアロー水和剤CT エコマスターBT フローバックDF
		成虫発生初期から終期	－(フェ)	コンフューザーN
8 ナシヒメシンクイ	1.ハマキムシ類の項を参照。	発生初期	－(フェ)	コンフューザーN
9 ケムシ類		発生初期	11A 11A 11A 11A 11A	デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤 エコマスターBT フローバックDF
10 シャクトリムシ類		発生初期	11A	エスマルクDF
11 カミキリムシ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.羽化脱出した成虫が接触するよう、地際に近い樹幹部や主枝の分岐部などに直射日光が当たらないよう１樹当たり１本かける。 2.有効期間は30日程度であるが、高温多雨など気象条件により、殺虫効果を示す期間が短くなる場合がある。 3.生菌を含むため、乾燥した冷暗所（約5℃）に密封して保管する。	成虫発生初期	－(生)	（生）バイオリサ・カミキリ